

第二次

葉山町子ども読書活動推進計画



平成 30 年 8 月
葉山町教育委員会

目次

第1章 第二次葉山町子ども読書活動推進計画策定の背景.....	1
1 子どもの読書活動の意義.....	1
2 国・県の動向.....	1
3 本町における取組状況と課題.....	2
(1) 読書をはじめのきっかけづくり.....	2
(2) 読書を習慣づける家庭での読書活動.....	3
(3) 読書を習慣づける地域での読書活動.....	4
(4) 学校等における読書環境の充実.....	4
(5) 町立図書館機能の充実.....	6
(6) 関係機関等の連携・協力.....	7
(7) 子どもが読書を通じて活躍できる機会の創出.....	7
第2章 計画の基本的な考え方.....	8
1 めざす子どもの姿.....	8
2 基本方針.....	8
3 計画の位置づけ.....	8
4 計画の対象.....	9
5 計画期間.....	9
6 計画の推進体制.....	9
第3章 計画推進のための取組.....	10
1 家庭・地域における読書活動の推進.....	10
2 図書館における読書活動の推進.....	11
3 学校等における読書活動の推進.....	11
資料編.....	14
1 葉山子ども読書活動推進計画改定にかかるアンケート調査の概要.....	14
2 調査結果の概要.....	15
3 前回アンケート（平成22年度実施）結果との比較.....	22
用語の解説.....	25

第1章 第二次葉山町子ども読書活動推進計画策定の背景

1 子どもの読書活動の意義

子どもの読書活動は、子どもが言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、想像力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身につけていくうえで、欠くことのできないものです。子どもが本を好きになるためには、生活の中に本があることと大人が本を読んであげることが有効です。暮らしの中で、いつでも必要なときに、手の届くところに本があること、そしてまわりの大人との良い関係の中で、子どもが本と出合えることが大切です。

からだの成長に食べ物が必要なように、知性や感性の発達にはこころの成長が必要です。本を開くとそこには知らない世界が広がります。読書を通して楽しいこと、自分の世界が広がることを経験して、生きる力を支えていくことができます。

読書は個人的な時間の使い方ですが、子どもが読書に親しむためには、周囲の大人がそっと寄り添い、押し付けることなく見守っていくことが必要です。

子どもたちに、上質の読書を保障するためには、社会が仕組みをつくって、関係機関が連携しながら環境を整備していく必要があります。

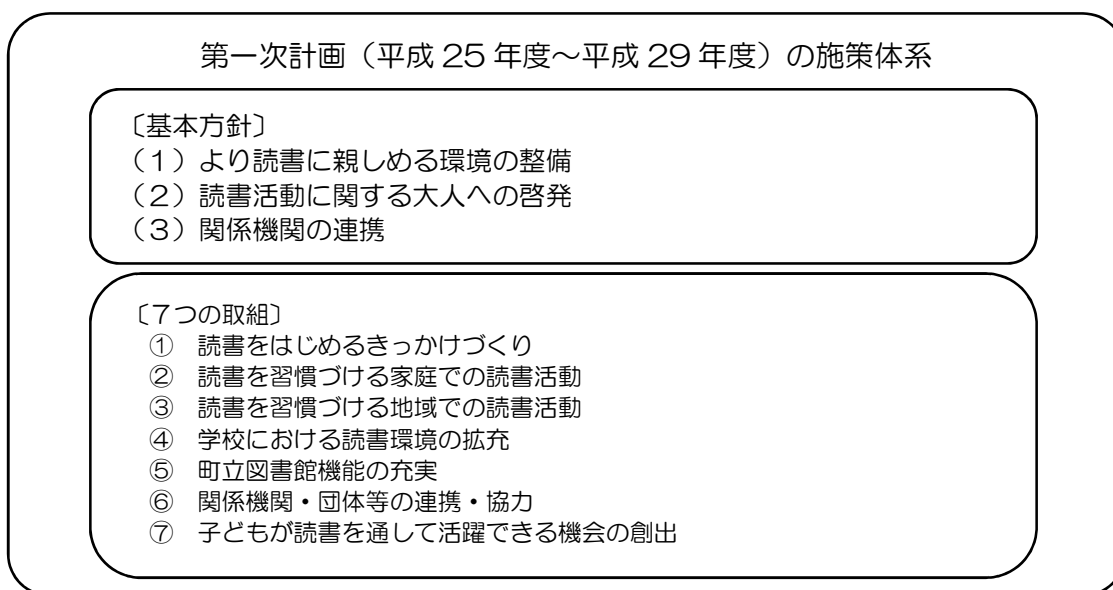
2 国・県の動向

子どもの読書活動をめぐる国及び神奈川県的主要な動向は次のとおりです。

年 月	国・県	内 容
平成 13 年 12 月	国	「子どもの読書活動の推進に関する法律」の公布・施行
平成 14 年 8 月	国	「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」の策定
平成 16 年 1 月	県	「かながわ読書のススメ～神奈川県子ども読書活動推進計画～」の策定
平成 17 年 7 月	国	「文字・活字文化振興法」の公布・施行
平成 18 年 12 月	国	「教育基本法」の改正
平成 19 年 6 月	国	「学校教育基本法」の改正
平成 20 年 3 月	国	「子どもの読書活動推進に関する基本的な計画」（第二次）の策定 新学習指導要領の告示（幼・小・中）
平成 20 年 6 月	国	「図書館法」の改正
平成 21 年 3 月	国	新学習指導要領の告示（高・特支）
平成 21 年 7 月	県	「かながわ読書のススメ～第二次神奈川県子ども読書活動推進計画～」の策定
平成 22 年	国	「国民読書年」の取組（平成 20 年 6 月 国会決議）
平成 25 年 5 月	国	「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」（第三次）の策定
平成 26 年 4 月	県	「かながわ読書のススメ～第三次神奈川県子ども読書活動推進計画～」の策定

3 本町における取組状況と課題

平成25年3月に策定した第一次葉山町子ども読書活動推進計画（以下、「第一次計画」という。）では、「読書を通じて心の豊かな子どもたちへ」を目標にかかげ、学校・地域・行政それぞれが、関わりのある子どもたちに対して読書活動を支援してきました。これら個々の活動を把握し、3つの基本方針のもと7つの取組を推進してきました。また、平成29年7月から9月に、小中学校を通じてアンケート調査を実施しました。第一次計画策定時に実施したアンケート調査と比較し、第一次計画期間における取組状況と課題について検証を行いました。



（1）読書をはじめめるきっかけづくり

〔取組状況〕

○ブックスタート事業の充実

乳児（4ヶ月児）健康診査が行われる毎月第1木曜日に、乳児と保護者に対する啓発事業として、子ども育成課と町立図書館が連携して絵本のプレゼントや読み聞かせ、図書館利用のガイダンスを行いました。

○子どもたちの年齢に応じたきっかけづくり

町立図書館では、毎週水曜日におはなし会を開催し、絵本の読み聞かせや紙芝居、手遊びなどを行い、子どもに読書の楽しさを伝え、本とのふれあいの場を提供しました。幼稚園・保育園、小・中学校においても読み聞かせや朝読書などの取組が行われており、年齢に応じた読書のきっかけづくりが行われました。

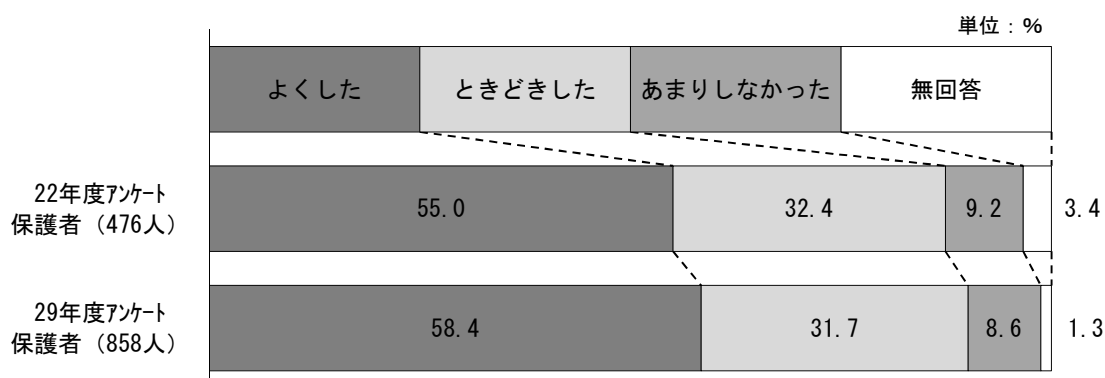
〔課題〕

小・中学生の保護者へのアンケートで、子どもへの読み聞かせの実施状況を聞いたところ、保護者の9割が「よくした」「ときどきした」と回答しており、子どもへの読み聞かせが定着していることが分かります。子どもへの読み聞かせに関心をもつきっかけとして、ブックスタート事業を継続していくことが重要です。

しかし、読書活動に関心が低い家庭への働きかけを行う機会がないことが課題となっており、保護者に対する子どもの読書活動の重要性を啓発する機会を増やしていくことが重要です。

子どもたちが読書をはじめめるきっかけづくりは、それぞれの施設、団体で行われていますが、関係機関、団体の情報共有が十分に行われていません。図書館から各施設、団体に対して積極的に情報発信したり、お互いの情報共有の場を設けたりするなど、連携の強化を図っていく必要があります。

子どもへの読み聞かせについて（保護者）



（2）読書を習慣づける家庭での読書活動

〔取組状況〕

○ブックリストの作成、配布

町立図書館では、保護者が自ら本を読むこと、子どもと図書館に行くこと、子どもが読んだ本について語り合うきっかけをつくることを目的として、ブックリストの充実を図り、配布を行いました。

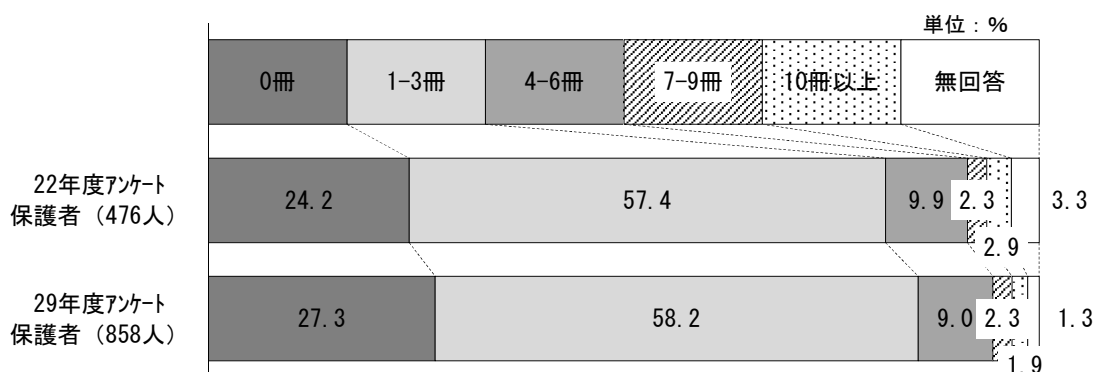
○保護者に対する子ども読書活動推進の啓発

ブックスタート事業や、図書館で実施しているおはなし会、生涯学習課が実施している家庭教育支援講座などを通じて、保護者に対して子どもの読書活動を推進するための働きかけを行いました。

〔課題〕

子どもたちの読書習慣には家庭が大きな役割を果たしますが、アンケートでは、1ヶ月に1冊も本を読まない保護者の割合は前回アンケートに比べてわずかですが上昇しています。家庭における乳幼児期の読み聞かせは定着してきましたが、学校段階においても、子どもたちが家庭において本を身近に感じられるように、保護者自身が読書を楽しみ、子どもの読書活動の大切さについて理解を深めるための機会を提供していく必要があります。

1ヶ月に読んだ本の冊数について（保護者）



（3）読書を習慣づける地域での読書活動

〔取組状況〕

○児童館での読書活動の充実

本町には各地区に児童館があり、その図書室では、図書館で除籍され再利用可能な図書や地域の保護者や子どもたちから寄付された本が利用されています。また、ボランティアグループや児童館職員が、乳幼児や児童を対象に、読み聞かせを実施しました。

○地域における子どもの読書活動推進にむけた体制づくり

町内には絵本の読み聞かせの活動をしているボランティア団体がいくつかあり、伝承のわらべ歌、ブックトークをはじめ様々な方法で子どもたちに本に親しんでもらえるような活動が行われました。

〔課題〕

地域において子どもの読書活動推進に向けた様々な取組が行われていますが、全体を把握することは困難であり、地域での取組の把握方法や連携のあり方について検討が必要です。

（4）学校等における読書環境の充実

〔取組状況〕

○学校等における読書活動推進の取組

保育園や幼稚園では日常的に読み聞かせが行われており、子どもたちが読書に親しむ機会が提供されました。

小学校では、ボランティアが朝学習時間等を利用して読み聞かせを行っており、子どもたちの読書活動を支える大きな役割を担っています。中学校では、2校とも全校

一斉の読書活動「朝読書」を始業前に毎日10分間実施しました。アンケート結果では、前回調査に比べて本を好きになった理由に学校での朝の読書をあげる割合が4%増加しました。

また、図書委員会による本の紹介や図書だよりの発行など、子どもたちの自主的な読書活動推進の取組が行われました。

○学校図書館の利用と充実

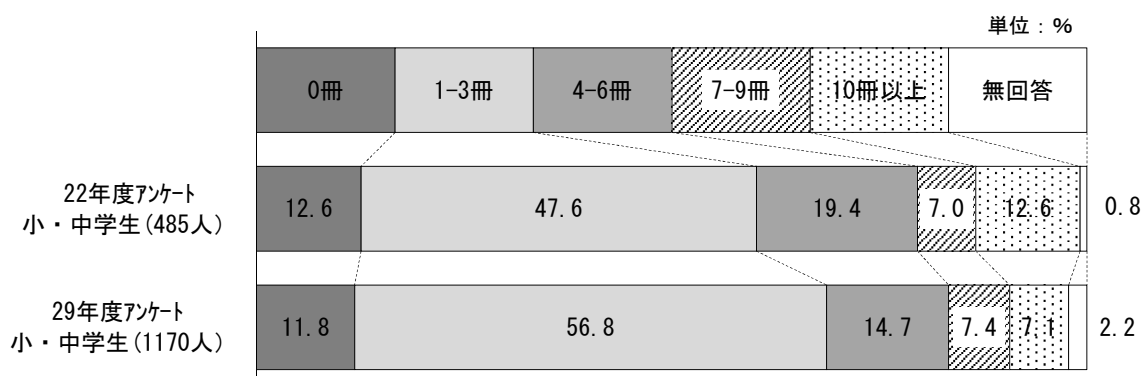
総合的な学習の時間などにおいて子どもたちが課題について調べる学習など、読書活動につながる授業や、子どもたちの「居場所づくり」の一環として、学校図書館を活用しました。

〔課題〕

アンケートでは、1ヶ月に1冊も本を読まない子どもの割合が、前回アンケートに比べて小学生で5%減、中学生で1%増となっており、全体として大きな変化はみられないものの、年齢が上がるにつれて読書離れが進む傾向がみられます。本をあまり読まない子どもたちは、「ほかに面白いことがある」、「どんな本を読んでいいのかわからない」、「面白い本をあまり読んだことがない」といった理由をあげています。同時に、下校後には学業や習い事などに忙しい様子もアンケートからうかがわれ、また、テレビやインターネットなど様々な興味・関心と相まって、読書に費やす時間が減少して行くようです。子どもたちが本をいっそう身近に感じられる環境づくりや、本の楽しさを発見できる取組が必要です。

学校図書館では、小学校は1校平均15,509冊、中学校は18,393冊（平成28年3月現在）と、学校図書館図書標準の定める冊数以上の蔵書があり、図書整理員を配置して配架図書の整理や貸出業務の補助等を行っていますが、専任の司書教諭がいないため、図書資料の更新など十分な活動ができないなどの課題があります。子どもたちへのアンケートでは、学校図書館に本の種類を増やしてほしいという回答した人の割合が92.5%あり、引き続き学校図書資料の整備に取り組むとともに、読書活動や学校図書館運営のためのボランティア受け入れや、町立図書館における団体貸出の活用促進、情報交換などの連携強化の取組が必要となっています。一方でアンケート結果には、子どもたちが読みたい本と、子どもたちに読んでほしい本の違いが反映されている面もあり、学校図書館の本を読みたいくなる配架の工夫にも取り組んでいく必要があります。

1ヶ月に読んだ本の冊数について（小・中学生）



(5) 町立図書館機能の充実

〔取組状況〕

○子ども読書活動推進の普及啓発

町立図書館では児童向け図書資料の充実を図っており、平成30年3月31日現在、図書資料160,164冊のうち、44,872冊の児童用図書を所蔵しています。これらの図書を利用したおはなし会の開催、図書館展示コーナーでテーマに沿った図書資料の展示、利用者が借りて読んだ本の履歴を記すことのできる「読書の記録」の作成、配布を行い、子どもの読書活動推進の普及啓発に努めました。

○利用しやすい環境づくり

町立図書館では、児童書のエリアに、子どもが靴を脱いであがれる場所を設置するなど、乳幼児とその保護者が利用しやすい環境づくりを図っています。また、子どもたちが親しみやすいように配架や展示、掲示等を工夫し、利用しやすい空間づくりに努めました。

○家庭、地域、学校への情報発信機能の充実

子どもの発達段階に応じたブックリストを作成し、町立図書館において配布を行ったほか、広報や図書館のホームページを活用して、推薦図書の紹介を行いました。

○学校等との連携

町立図書館では小学校、児童館、学童クラブ、保育園、読み聞かせ等の団体に対し、団体貸出を行っており、平成29年度には29団体、4,010冊の貸出を行いました。また、中学生の職場体験や教職員の職場研修を積極的に受け入れ、図書館の仕事を体験することを通じて、図書館への理解をより一層深めてもらう取組を行いました。

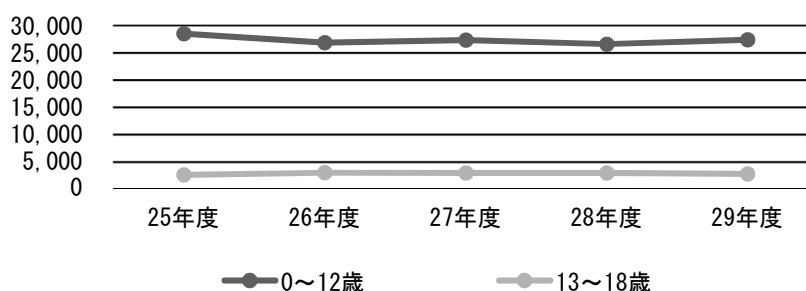
〔課題〕

町立図書館において、0～12歳及び13～18歳の子どもたちの貸出冊数の過去5年間の推移は、横ばいの傾向にあります。児童・生徒へのアンケートでは、町立図書館に「こうしてほしい」と思うこととして、本の種類を増やしてほしいと回答した人の割合が全体の87.7%あり、引き続き図書資料の整備に努めていくことが求められています。

また、町立図書館に来館しにくい地域の子どものたちもおり、学校図書館や児童館等への団体貸出の促進など、いっそうの連携を進めていく必要があります。

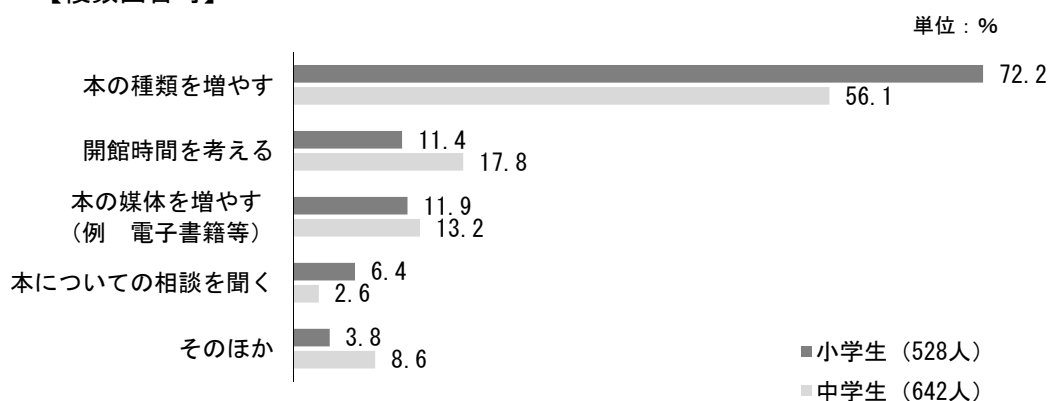
町立図書館で実施しているおはなし会では、毎回子どもと保護者15人程度の参加があります。今後、参加者をさらに増やしていくためには、子どもの年齢に応じたテーマを設定して実施するなど、おはなし会を実施している図書館職員のスキルアップを図るための研修を実施していく必要があります。

子どもの貸出冊数統計推移



町立図書館にしてほしいこと（小・中学生）

【複数回答可】



平成29年度アンケート調査より

（6）関係機関等の連携・協力

〔取組状況〕

町立図書館では、庁内関係部局が実施するブックスタート事業や家庭教育支援講座と連携して、子どもの読書活動推進に取り組みました。

〔課題〕

学校や児童館、ボランティア団体との連携が十分ではなく、情報共有がされているとはいえません。地域における子ども読書活動推進のセンターとして、町立図書館が積極的な連携・協力の推進を図る必要があります。

（7）子どもが読書を通じて活躍できる機会の創出

〔取組状況〕

町立図書館では、「読書の記録」により本の貸出数が一定冊数に達したら表彰を行う取組を行いました。学校においては、社団法人全国学校図書館協議会及び新聞社が毎年主催する「青少年読書感想文全国コンクール」に参加するなどの取組が行われました。

〔課題〕

かかげた取組が基本方針との関係において明確ではなく、他の取組と結果的に重複する部分も少なくありません。本取組は、子どもたちが読書の習慣づけを図るための方策の一つとして位置づけ直し、第二次葉山町子ども読書活動推進計画（以下、「第二次計画」という。）に反映させていくこととします。

第2章 計画の基本的な考え方

1 めざす子どもの姿

第一次計画は、読書を通じて心豊かな子どもの成長をめざすことを目的として策定されましたが、子どもの読書活動をより一層推進するためには、明確な課題を設定し、一般にその重要性が伝えられなければなりません。

現行の学習指導要領では、「生きる力」をはぐくむことを目指し、知識や技能の習得とともに、思考力・判断力・表現力等の育成が重要視されています。第二次葉山町教育総合プランにおいてもこの理念を共有し、子どもの豊かな自己実現力（生きる力）をはぐくむことを目標にかかげています。本計画では、「生きる力」を支える「確かな学力」や「豊かな心」を育てるために、読書は読解力や表現力、他者と共感できる力等を伸ばしてくれる重要な活動と位置づけ、読書を通して感動を伝えたり、学ぶことの喜びや楽しさを発見したり、新たな興味、関心を高めたりすることで、心豊かに生きる力をもった子どもを育てていくことをめざします。

2 基本方針

第二次計画は、第一次計画の基本的な考え方を引き継ぎつつ、課題としてあげられた家庭、地域、学校の連携に重点を置き、3つの基本方針を掲げて子どもの読書活動の推進を目指します。

(1) 子どもたちが読書に親しむ機会の提供と環境の整備

子どもの自主的な読書活動を推進するため、発達の段階に応じた読書に対するきっかけ作りや、読書の幅を広げ、読書体験を深められる環境を整備します。

(2) 子どもの読書活動推進の普及啓発

子どもの読書活動の向上は、周囲の大人の本との関わり方に影響を受けます。

大人が子どもの読書活動について関心をもち、理解を深められるように、読書活動推進の重要性について積極的な普及・啓発を図ります。

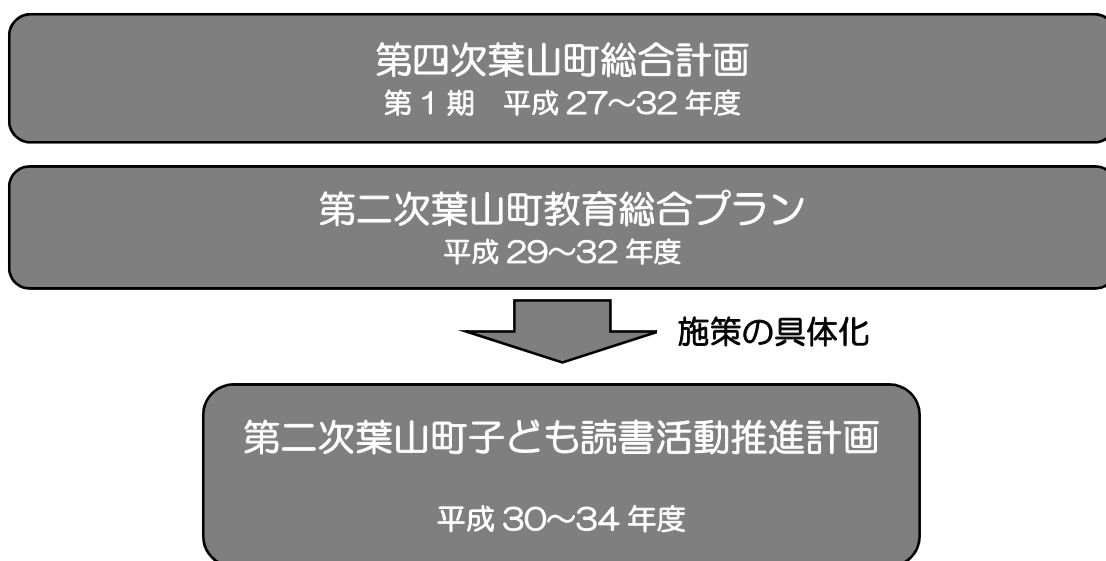
(3) 関係機関の連携強化

家庭、地域、学校など町全体で取組を進めるため、関係機関、団体がそれぞれの役割をいかした取組を推進するとともに、相互の連携・協力の強化を図ります。

3 計画の位置づけ

本計画は、「子どもの読書活動の推進に関する法律」に基づき、国の「子ども読書活動の推進に関する基本的な計画（第三次）」及び「かながわ読書のススメ～第三次神奈川県子ども読書活動推進計画～」を参酌しながら、本町における子ども読書活動の推進に関する「第二次計画」として策定するものです。また、「第四次葉山町総合計画」

(第1期・平成27年度～平成32年度) および「第二次葉山町教育総合プラン」(平成29年度～平成32年度) との整合に努め、事業間の調整・連携を図ります。



4 計画の対象

この計画では、おおむね18歳以下のすべての子どもを対象とします。

5 計画期間

平成30年度(2018年度)から平成34年度(2022年度)までの5年間としますが、第四次葉山町総合計画基本計画及び第二次葉山町教育総合プランの計画期間が平成32年度までとなっているため、計画の変更が必要な場合は、適宜見直しを行うものとします。

6 計画の推進体制

本計画の推進にあたっては、図書館を中心とする子ども読書活動にかかわる事業を担当している本町関係部局、家庭、保育園・幼稚園、学校、関係機関・団体等が、相互に連携を図りながら取組を進めていきます。

この計画の取組については、葉山町社会教育委員会議にて報告を行い、進捗状況を確認しながら、必要に応じて見直しを行っていきます。

第3章 計画推進のための取組

第一次計画では3つの基本方針のもと、7つの取組を定めて計画を進めました。しかし重複する部分も多かったため、第二次計画では、それらの取組をその担い手である家庭・地域、図書館、学校等の3つに整理し、それぞれの取組において基本方針を踏まえた施策が図られるよう進めていきます。

第二次計画の取組	第一次計画の取組
家庭・地域における読書活動の推進 〔施策1-(1)～(7)〕	①読書をはじめのきっかけづくり
	②読書を習慣づける家庭での読書活動
	③読書を習慣付ける地域での読書活動
	⑥関係機関・団体等の連携・協力
図書館における読書活動の推進 〔施策2-(1)～(7)〕	①読書をはじめのきっかけづくり
	⑤町立図書館の機能の充実
	⑥関係機関・団体等の連携・協力
	⑦子どもが読書を通して活躍できる機会の創出
学校等における読書活動の推進 〔施策3-ア-(1)(2)、イ-(1)～(4)〕	①読書をはじめのきっかけづくり
	④学校における読書環境の拡充
	⑥関係機関・団体等の連携・協力
	⑦子どもが読書を通して活躍できる機会の創出

1 家庭・地域における読書活動の推進

(1) 「ブックスタート」事業の充実

乳幼児と保護者が絵本を介してゆっくりと心触れ合うひと時を過ごし、読書に親しむ機会となるよう、引き続きブックスタート事業を推進します。

(2) ブックリストの配布

子どもの発達段階に応じたブックリストを作成し、図書館、幼稚園・保育園、小中学校、地域の子どもが関わる施設等で配布します。

(3) 家庭教育支援講座等での保護者への啓発

生涯学習課が実施する家庭教育支援講座や公民館教室におけるおはなし会や読み聞かせ講座などを通じて、家庭における読書推進の普及・啓発を図っていきます。

(4) 児童館における読書活動推進

児童館の図書を活用した、ボランティア団体や職員によるおはなし会を実施します。また、児童館の図書室で、新しい本やお勧めの本にPOPを付けて紹介する等、様々な工夫をし、本の内容が子どもにわかりやすくなるよう案内の充実に努めます。

(5) PTA、読み聞かせ団体等の活動支援

PTAや絵本の読み聞かせの活動をしているボランティア団体と連携し、知識の共有やレベルアップの支援を行います。

2 図書館における読書活動の推進

(1) 図書資料の充実

子どもの発達段階に応じた図書資料（乳幼児・児童・ヤングアダルト）の充実を図ります。

(2) 図書館への来館促進

・おはなし会や展示コーナーでの図書展示を改善しながら継続し、子どもたちや保護者が来館するきっかけを多くつくります。

・「読書の記録」を配布するなど、利用者の読書意欲を高める取組を通じて来館促進を図ります。

(3) 利用しやすい環境づくり

・子どもたちが親しみやすいように配架や展示、掲示等を工夫し、利用しやすい空間づくりを継続して行います。

・インターネットの接続環境の整備を図るとともに、時代に即したICT（情報通信技術）環境の整備について検討を進めます。

(4) 情報発信機能の充実

・子どもの発達段階に応じたブックリストを作成し、学校図書館や児童館など、図書館以外の施設等でも配布を行います。

・町の広報やホームページを活用して、子どもの読書活動推進の取組みについて積極的に情報発信し、普及啓発を図ります。

(5) 関連機関、団体の資料充実支援

団体貸出の実施や、リサイクル資料の提供を通じて、幼稚園・保育園、小中学校、児童館など子どもに関連する施設の図書資料の充実を支援します。

(6) 学校との連携強化

図書館見学や職場体験などの積極的な受け入れや、団体貸出の促進、調べ学習などに対するレファレンスサービス機能の強化により、学校等との連携の充実を図ります。

(7) 支援を必要とする子どもへの読書活動支援

様々な課題を抱えた子どもたちの読書活動を支援するため、その方策について、課題ごとに関係機関との連携を図ります。

3 学校等における読書活動の推進

ア 保育園・幼稚園

(1) 読み聞かせの実施

幼稚園や保育園では、絵本や物語との出会いの場を設け、その楽しさを伝えるため、引き続き読み聞かせやおはなし会が実施されるよう支援を行います。

(2) 幼稚園や保育園における図書の充実

図書館の団体貸出やリサイクル資料を有効活用して、絵本など児童図書のいっそうの充実が図られるよう支援します。

イ 小・中学校

(1) 読書活動の計画的な取組の推進

《小学校》

毎月の学級の生活目標の一つとして読書活動を推進し、全校では読書週間における取組を活発にするよう努めます。

《中学校》

読書活動「朝読書」を今後も継続して行い、読書の習慣づけを図るよう努めます。

(2) 学校図書館の充実

子どもたちの読書活動を支える場として、また、「居場所」として学校図書館の図書資料の整備に努めるとともに、子どもたちが本を手に取りやすい配架・レイアウトの創意工夫に努めます。

(3) 読書活動につながる授業づくりの推進

各教科や総合的な学習の時間等で、子どもたちが課題について調べる学習や、読んだ本の内容を絵画で表現する学習など、読書活動につながる授業づくりの推進に努めます。

(4) 児童・生徒による自主的な読書活動推進の取組支援

図書委員会による「図書だより」の発行や、新刊書に関するポスター作成により本の魅力を伝える活動など、子どもたちによる自主的な読書活動推進の取組を支援します。



取組内容	関係部署等	
学校・家庭における読書活動の推進	「ブックスタート」事業の充実	子ども育成課、図書館
	ブックリストの配布	図書館
	家庭教育支援講座等での保護者への啓発	生涯学習課、図書館
	児童館における読書活動推進	子ども育成課
	PTA、読み聞かせ団体等の活動支援	生涯学習課、図書館
図書館における読書活動の推進	図書資料の充実	図書館
	図書館への来館促進	図書館
	利用しやすい環境づくり	図書館
	情報発信機能の充実	図書館
	関連機関、団体の資料充実支援	図書館
	学校との連携強化	図書館、学校
	支援を必要とする子どもへの読書活動支援	図書館、学校、子ども育成課
学校等における読書活動の推進	読み聞かせの実施	幼稚園、保育園
	幼稚園や保育園における図書の充実	幼稚園、保育園、図書館
	読書活動の計画的な取組の推進	学校
	学校図書館の充実	学校
	読書活動につながる授業づくりの推進	学校
	児童・生徒による自主的な読書活動推進の取組支援	学校

資料編

1 葉山子ども読書活動推進計画改定にかかるアンケート調査の概要

1 調査の概要

(1) 目的

第一次葉山町子ども読書活動推進計画の成果を検証するため、町内小中学校の保護者及び児童生徒に対し、「葉山における子どもの読書の現状と今後に関するアンケート」を実施し、第二次計画策定の基礎資料とする。

(2) 実施方法

アンケート用紙を配布し、学校単位で実施、回収する。

(3) 調査対象

①調査対象 葉山町内の小学校4校、中学校2校

②対象学年等 小学校3～6年、中学校全学年の児童生徒と保護者

(4) 調査期間

平成29年7月から9月

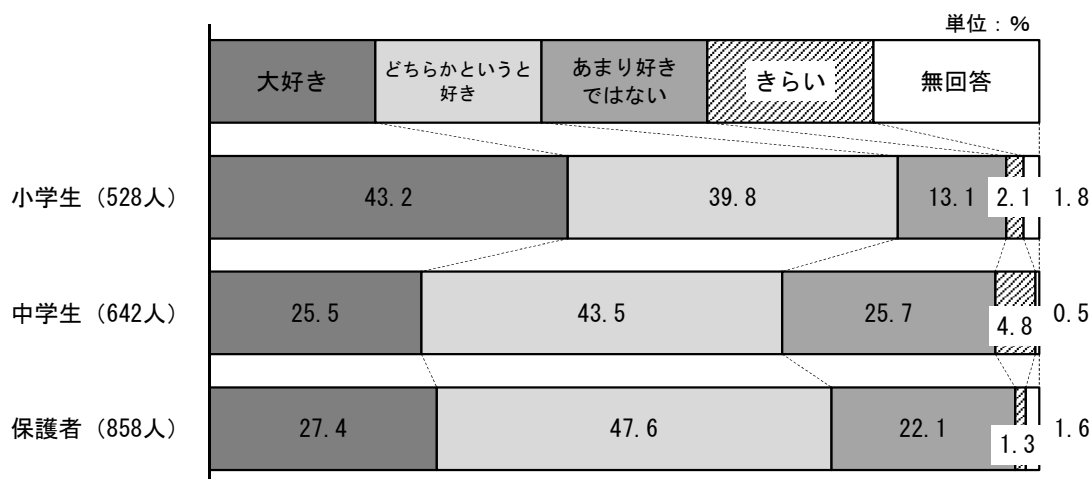
(5) アンケート回収結果

小学校1,268枚、中学校880枚合計2,148枚を配布し、小学校は538枚回収、うち有効回収数528枚、中学校は645枚回収、うち有効回収数642枚、有効回収数合計1,170枚で有効回収率は54.5%だった。また、保護者アンケートは、2,148枚を配布し、860枚回収、うち有効回収数858枚で有効回収率は39.9%だった。

	調査対象数 (A) 人	回収数 (B) 枚	有効回収数 (C) 枚	有効回収率 (D=C/A) %
小学3年生	312	538	100	32.1
小学4年生	353		153	43.3
小学5年生	319		125	39.2
小学6年生	284		150	52.8
小計	1,268	538	528	41.6
中学1年生	295	645	232	78.6
中学2年生	301		228	75.7
中学3年生	284		182	64.1
小計	880	645	642	73.0
合計	2,148	1,183	1,170	54.5
保護者	2,148	860	858	39.9

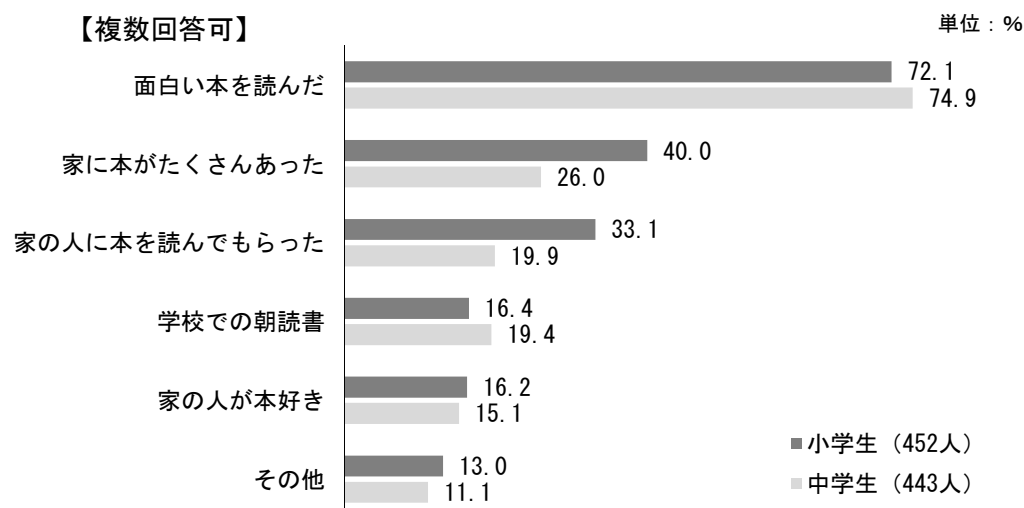
2 調査結果の概要

【本を読むことについて】（小・中学生、保護者）



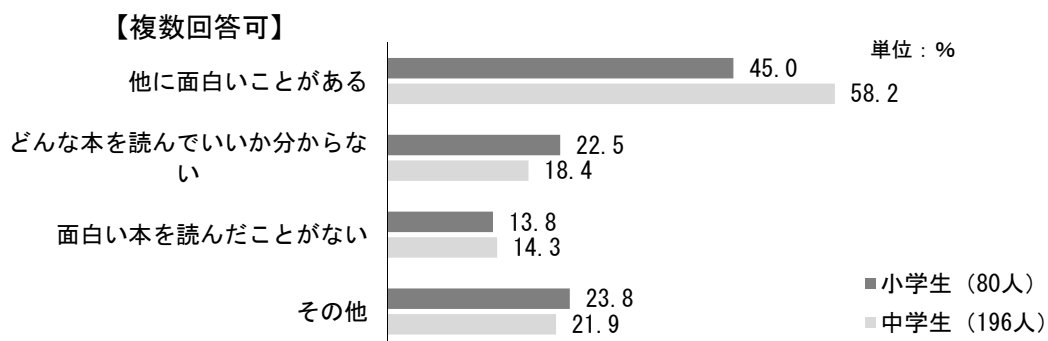
本を読むことが好き(「大好き」または「どちらかという好き」という回答は、小学生で83%、中学生で69%、保護者が75%となっており、小学生の好感度が高くなっています。

【本を好きな理由について】（小・中学生）



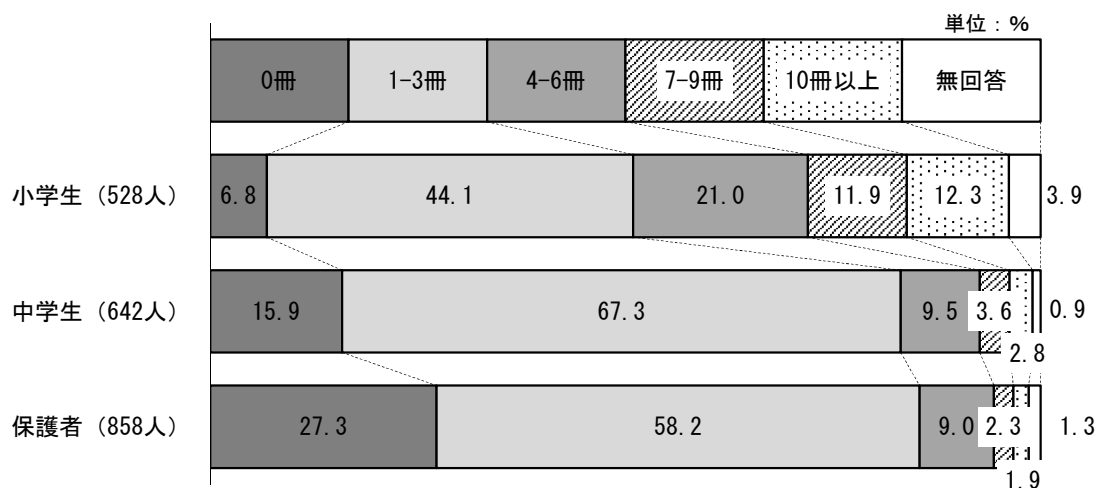
本を読むことが好き(「大好き」または「どちらかという好き」と回答した小・中学生に対して、好きになった理由を聞いたところ、「面白い本を読んだ」(小学生72.1%、中学生74.9%)が最も高く、次いで「家に本がたくさんあった」「家の人に本を読んでもらった」が続いています。「学校での朝読書」が小学生16.2%、中学生19.4%と一定の割合を占めており、読書を好きになるきっかけとなっています。

【本がきらいな理由について】（小・中学生）



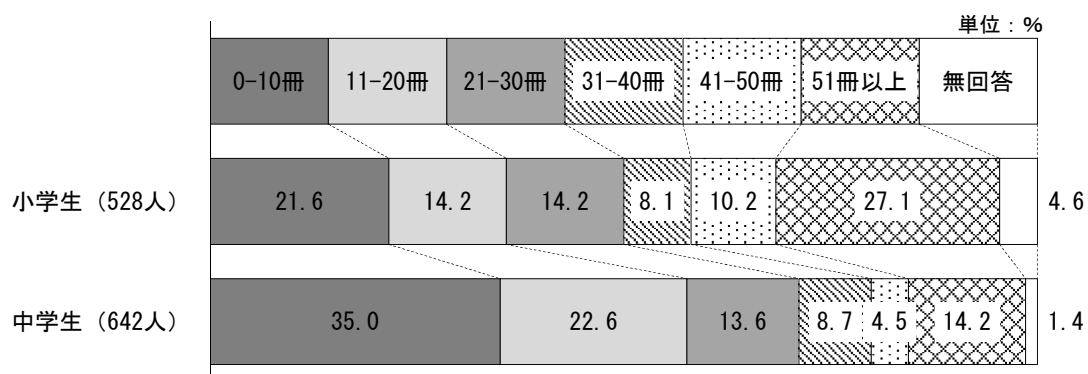
本を読むことが好きではない（「あまり好きではない」または「きらい」と回答した小・中学生に対して、きらいな理由を聞いたところ、「他に面白いことがある」（小学生45%、中学生58.2%）が最も高く、次いで「どんな本が読んでいいかわからない」（小学生22.5%、中学生18.4%）となっています。

【1ヶ月に読む本の冊数】（小・中学生、保護者）



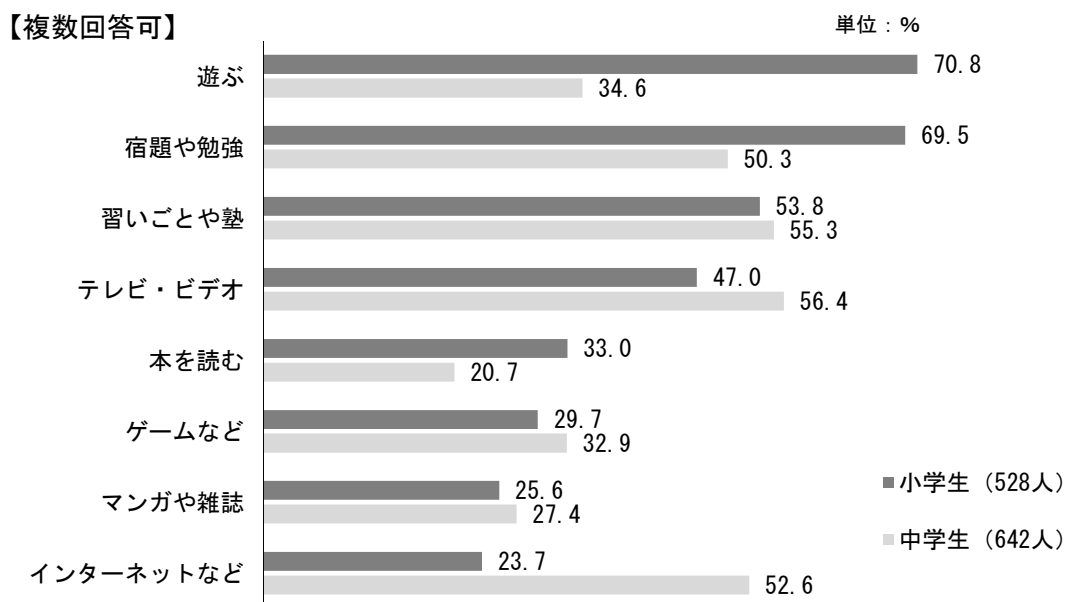
1ヶ月に読んだ本の冊数について、小・中学生、保護者いずれも「1～3冊」が最も高く、次いで小学生では「4～6冊」が高くなっておりませんが、中学生、保護者では不読者（0冊）の割合が高くなっています。年齢が上がるにつれて読書離れが進んでいることがわかります。

【持っている本の冊数】（小・中学生）



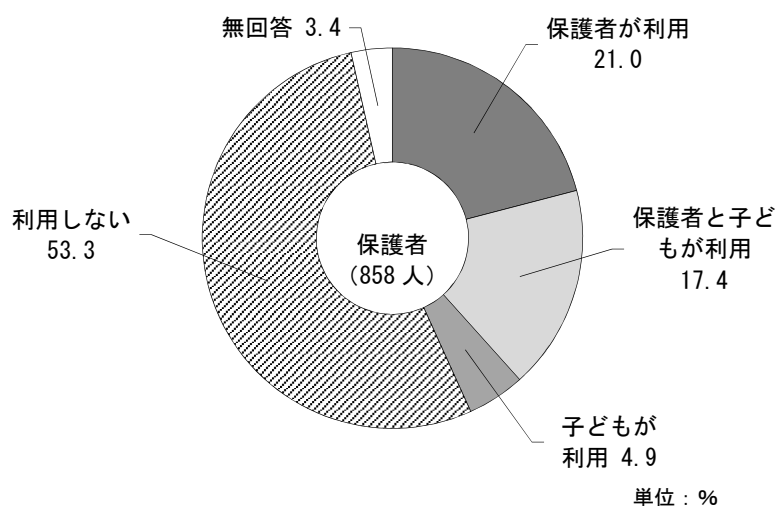
持っている本の冊数については、小学生では「51冊以上」が最も高く、次いで「0-10冊」が続いており、二極化の傾向がうかがえます。中学生では「0~10冊」が最も高くなっています。

【下校後にすること】（小・中学生）



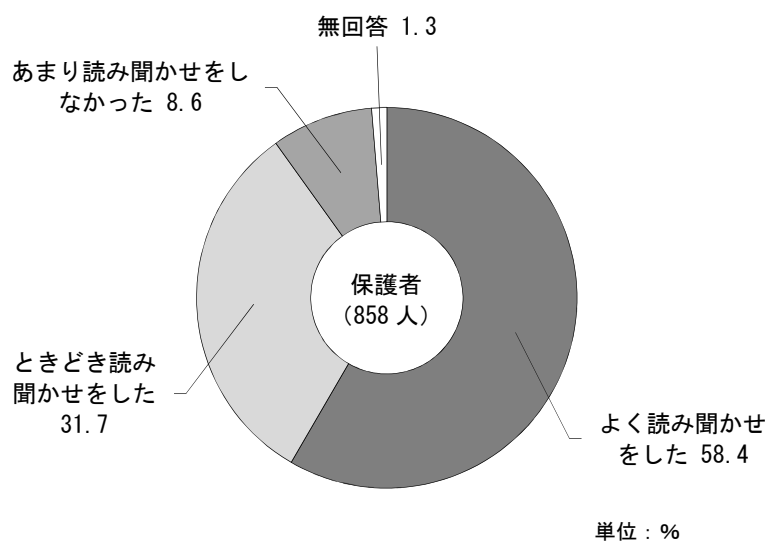
下校後にすることについて、小学生では「遊ぶ」が最も高く、次いで「宿題や勉強」となっています。中学生では「テレビやビデオ」が最も高く、次いで「習い事や塾」「宿題や勉強」となっています。小学生に比べ中学生が「本を読む」と回答した割合は13ポイント低くなっています。

【電子書籍の利用状況】（保護者）



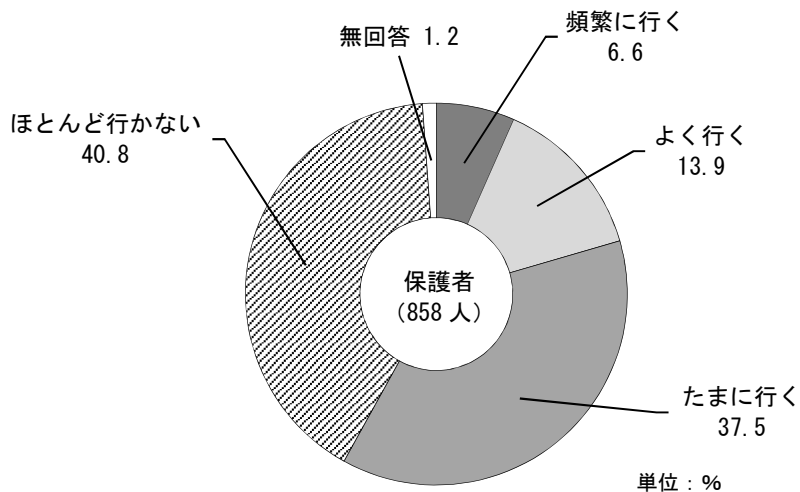
小・中学生の保護者に電子書籍の利用状況について聞いたところ、保護者の利用が38.4%、子どもの利用が22.3%となっており、保護者も子どもも利用しないという回答が53.3%となっています。

【本の読み聞かせについて】（保護者）



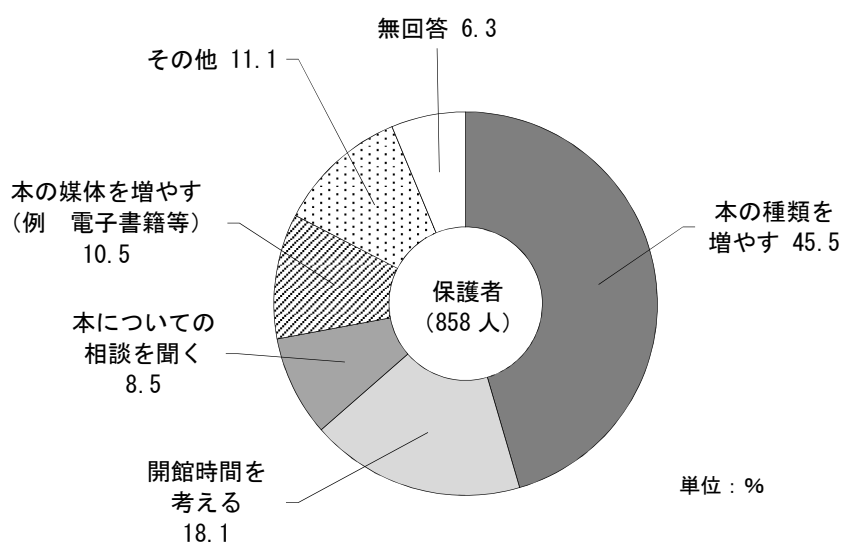
子どもへの読み聞かせの有無について聞いたところ、「よくしていた」「ときどきしていた」が90.1%、「あまりしなかった」が8.6%となっています。

【図書館の利用状況】（保護者）



保護者に対して、図書館の利用状況について聞いたところ、「頻繁に行く」「よく行く」「たまに行く」が58%、「ほとんど行かない」が40.8%となっています。

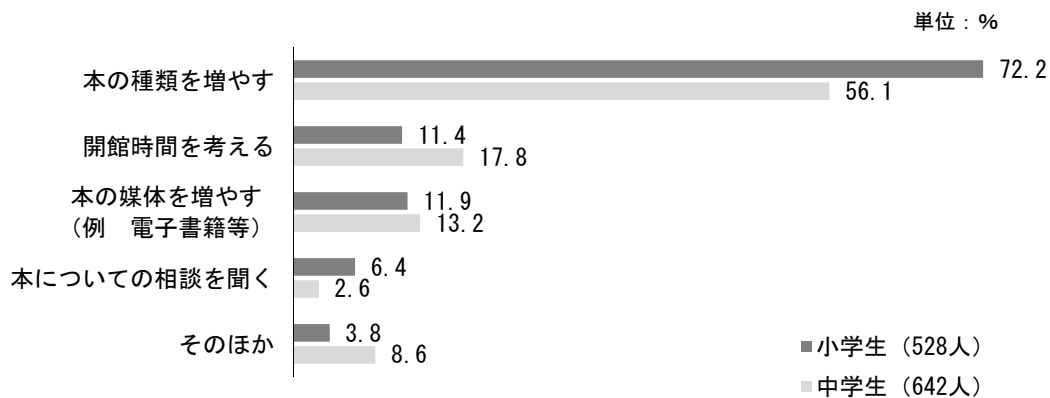
【図書館にしてほしいこと】（保護者）



保護者に対して、図書館にしてほしいことを聞いたところ、「本の種類を増やす」が45.5%と最も高く、次いで「開館時間を考える」となっています。

【図書館にしてほしいこと】（小・中学生）

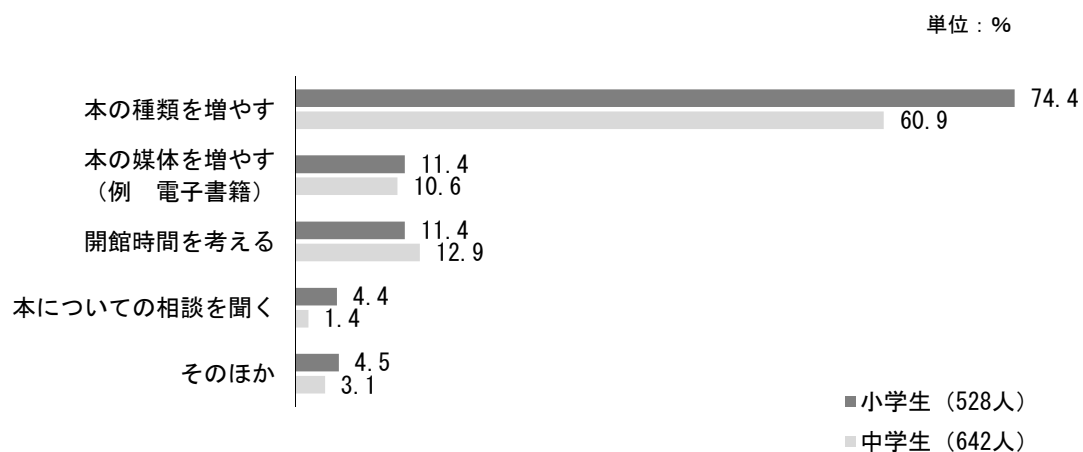
【複数回答可】



小・中学生に対して図書館にしてほしいことを聞いたところ、「本の種類を増やす」が最も高く、小学生で72.2%、中学生で56.1%となっています。

【学校図書館にしてほしいこと】

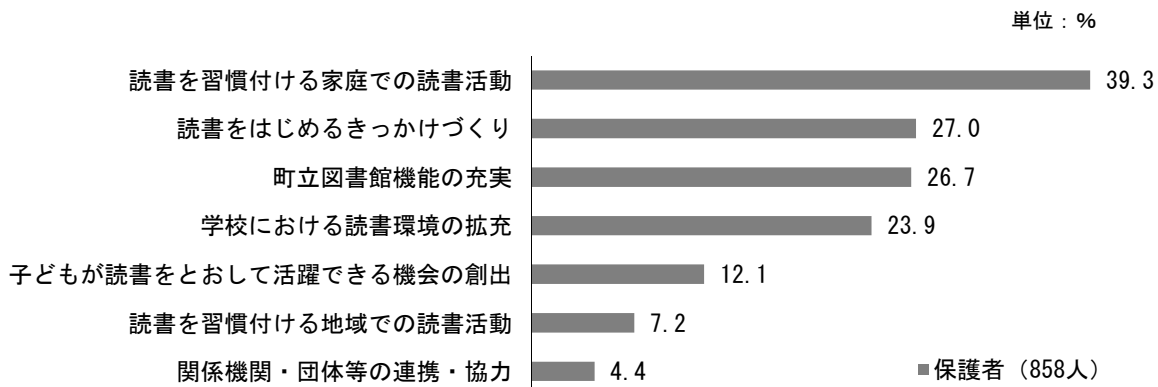
【複数回答可】



小・中学生に対して学校図書館にしてほしいことを聞いたところ、「本の種類を増やす」が最も高く、小学生で74.4%、中学生で60.9%となっています。

【子どもの読書活動推進で不足していた取組】（保護者）

【複数回答可】



保護者に対して、子どもの読書活動推進で不足していた取組について聞いたところ、「読書を習慣付ける家庭での取組」が最も高く、次いで「読書をはじめるきっかけづくり」「町立図書館の機能の充実」「学校における読書環境の拡充」が続いています。



3 前回アンケート（平成 22 年度実施）結果との比較

第一次葉山町子ども読書活動推進計画の策定に先立って、平成 22 年に町内小中学校の保護者及び児童生徒に対し、「葉山における子どもの読書の現状と今後に関するアンケート」を実施しています。

今回実施したアンケート項目と共通の内容について比較し、本町の子ども読書活動に関する意識やニーズの変化をみていきます。

※平成 22 年度実施アンケート調査の概要

調査対象 葉山町内の小学校 4 校、中学校 2 校

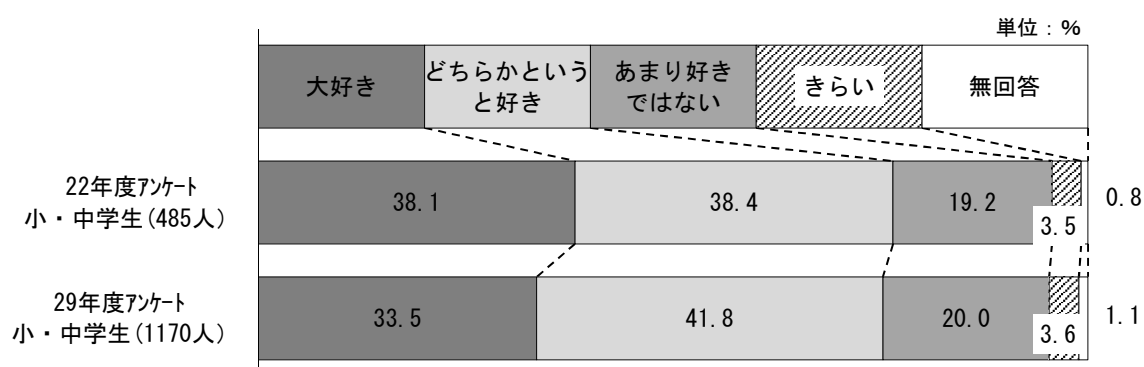
対象学年等 小学校 3～6 年生、中学校 1～3 年生、保護者

調査期間 平成 22 年 7 月から 9 月

アンケート回収結果

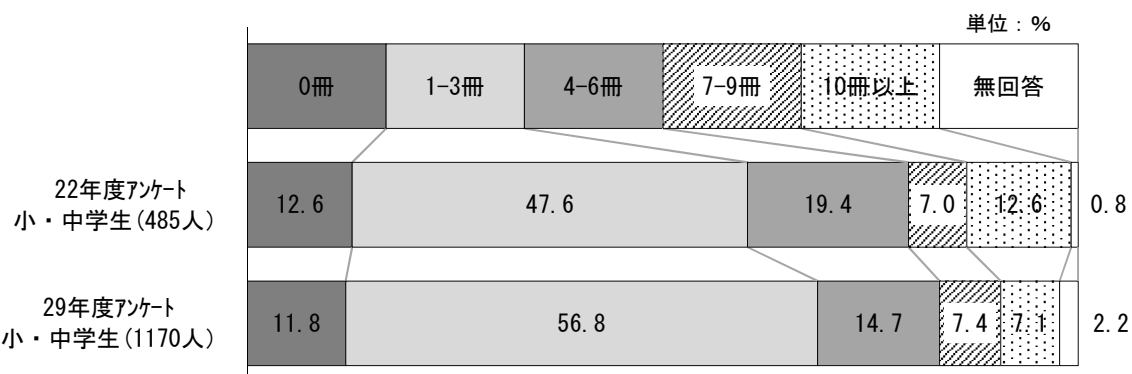
	小学校	中学校	小・中合計	保護者
配布数	1,223	738	1,961	1,961
回収数	404	81	485	476
回収率	33.0%	10.3%	24.7%	24.3%

【本を読むことについて】（小・中学生）



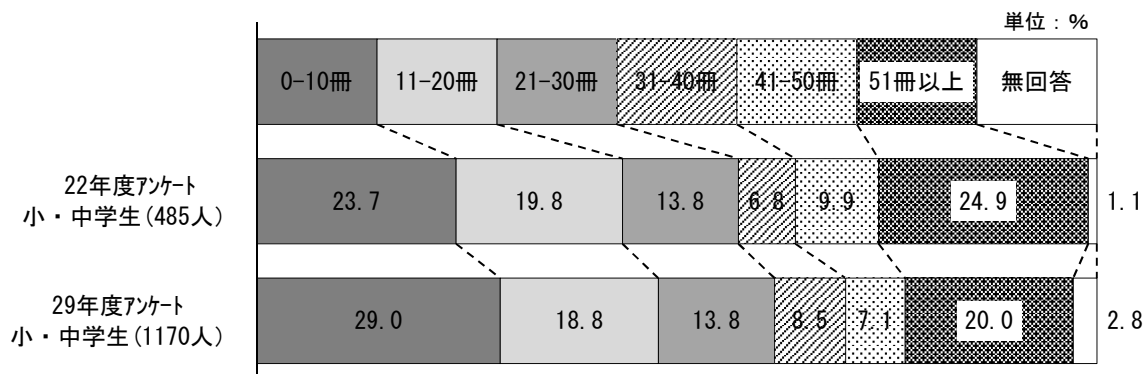
本を読むことが好き（「大好き」または「どちらかという と好き」）という回答は、22 年度アンケートでは 76.5%、29 年度アンケートでは 75.3% となっており、大きな変化はありませんが、大好きな子どもが 22 年度に比べて 4.6 ポイント減少しています。

【1ヶ月に読む本の冊数】（小・中学生）



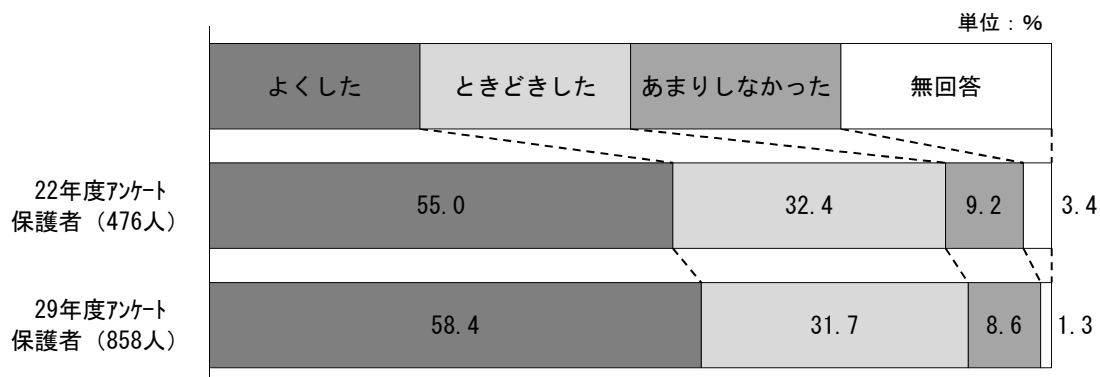
1ヶ月に読んだ本の冊数について、22年度アンケートと比較すると、不読者の割合はわずかながら減少していますが、全体的に読んだ冊数は減少傾向にあります。

【持っている本の冊数】（小・中学生）



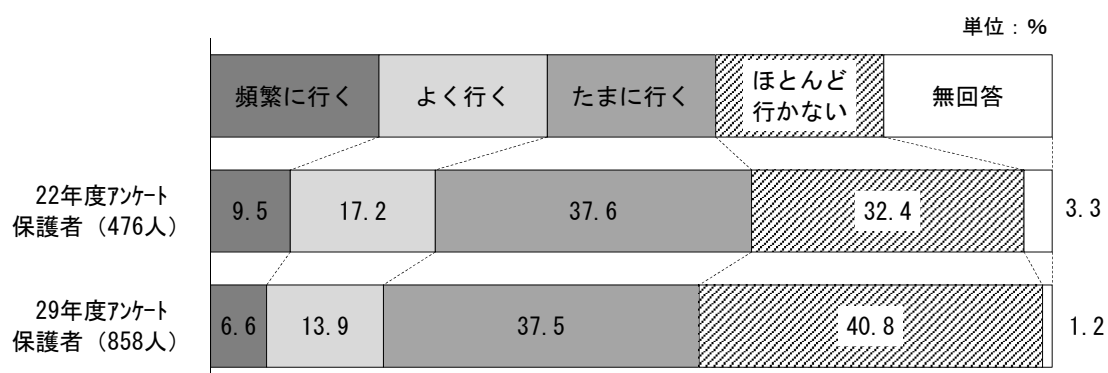
持っている本の冊数について、22年度アンケートと比較すると、「0～10冊」の割合が5.3ポイント増加しており、全体的にみても減少傾向にあります。

【本の読み聞かせについて】（保護者）



子どもへの読み聞かせの実施状況について、22年度アンケートと比較すると、「よくした」「ときどきした」の合計割合が2.7ポイント増加しています。

【図書館の利用状況】（保護者）



図書館へ行く頻度について、22年度アンケートと比較すると、「ほとんど行かない」という回答が8.4ポイント高くなっており、「頻繁に行く」「よく行く」という回答は6.2ポイント低くなっています。

用語の解説

ア行

朝読書

読書を習慣づけることを目的に、学校で始業前の10分間程度行われている読書活動のこと。

おはなし会

図書館等で、子どもを対象におはなしを聞かせる集いのこと。

カ行

学校図書館図書標準

公立の義務教育諸学校において、学校図書館の図書の整備を図る際の目標として、平成5年に文部省（当時）が学級数に応じた蔵書冊数を示したものの。

サ行

司書教諭

学校図書館法にもとづき、学校図書館の専門的職務を担う教員として置かれる。司書教諭は、教諭として採用された者が学校内の役割として学校図書館資料の選択・収集・提供や子どもの読書活動に対する指導、さらには、学校図書館の利用指導計画について立案し、その実施の中心となるなど、学校図書館の運営・活用について中心的な役割を担っている。

タ行

団体貸出

団体利用者に対して図書館資料を貸し出すこと。町立図書館では、館外利用の承認を受けた、本町に事務所を有する官公署、学校、会社及び社会教育関係団体等に対し、1回につき300冊以内の図書資料の貸出を行っている（貸出期間は1ヶ月以内）。

読書週間

毎年10月27日から11月9日までの2週間にわたり、読書の普及のために設定された行事週間。

ハ行

ブックスタート

赤ちゃんのいる家庭に絵本をプレゼントして、絵本を通して赤ちゃんと保護者が楽しい時間を分かち合うことを応援する活動。

ブックトーク

あるテーマに沿って一連の本に関するエピソードや主な登場人物、著作者の紹介、批評や解説を加えながら、一つの流れができるよう順序良く紹介し、読書意欲を起こさせる活動。

ブックリスト

図書館職員などが一つのテーマに沿って推薦する本の目録。

POP

書店や図書館等でお薦めの本を紹介したメッセージカード。

ヤ行

読み聞かせ

絵本の絵を子どもたちに見せながら、読んで聞かせること。

ウ行

レファレンスサービス

図書館利用者からの、学習・研究・調査を目的とする、必要な情報や資料についての問い合わせに応じ、図書の照会や検索を行って援助する業務。

第二次葉山町子ども読書活動推進計画

発行：平成30年8月

発行者：葉山町教育委員会

編集：生涯学習課

葉山町堀内2050番地の9

電話：046-876-1111